

令和4年度第2回 消費生活意識調査

調査概要

1. 調査方法

インターネットを利用したアンケート調査

2. サンプル数

5,000 サンプル（人口構成比に応じた割付）

性年代

7段階の男女（15～19歳、20～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60～69歳、70歳以上）

地域 地域区分は、次の単位とする。

北海道・東北：北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、千葉県、神奈川県

甲信越：新潟県、山梨県、長野県

北陸：富山県、石川県、福井県

東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州・沖縄：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

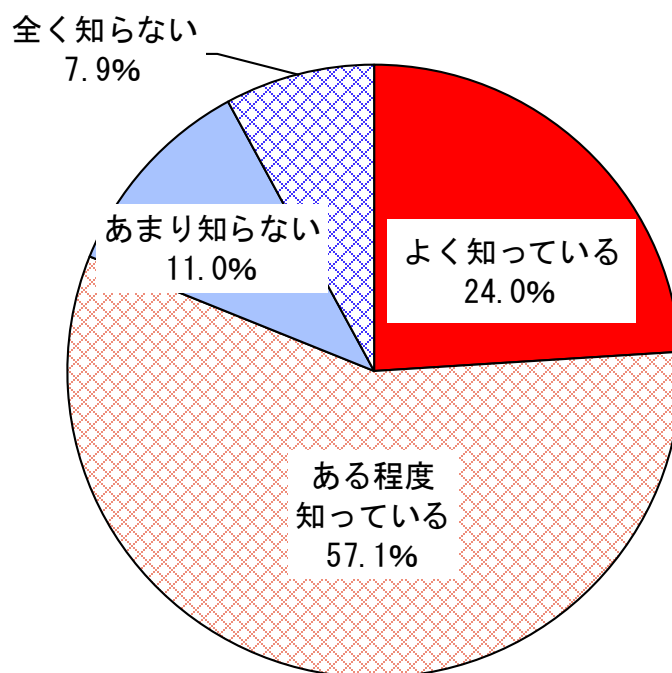
3. 調査実施期間

令和4年9月1日（木）～9月3日（土）

（備考）合計数値は、四捨五入の関係で、図表中の数値の合計と一致しない場合がある。

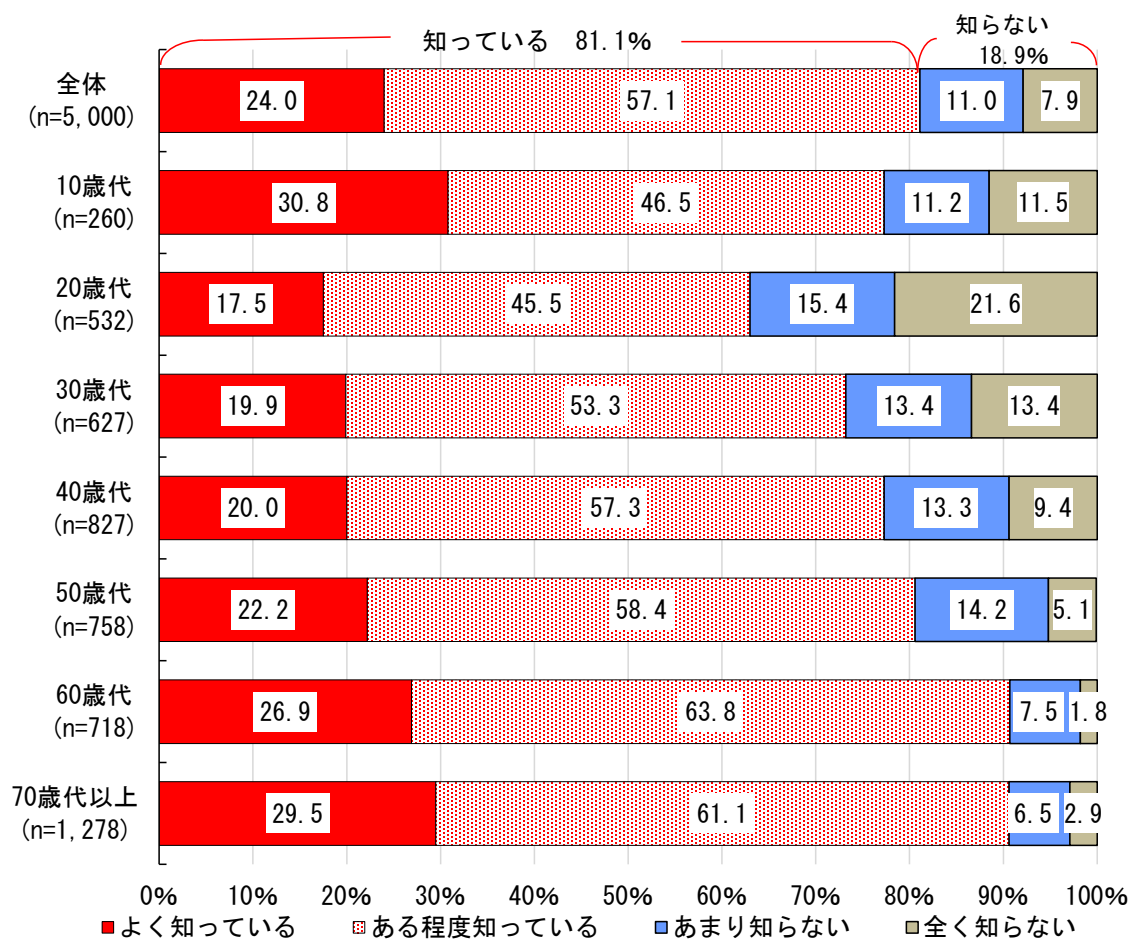
問1. あなたは、「食品ロス」が問題となっていることを知っていますか。以下の項目のうち、当てはまるものを一つお選びください。(単一回答)

食品ロスが問題となっていることについて、「よく知っている (24.0%)」、「ある程度知っている (57.1%)」と回答した人の割合が合計で8割以上を占めている。



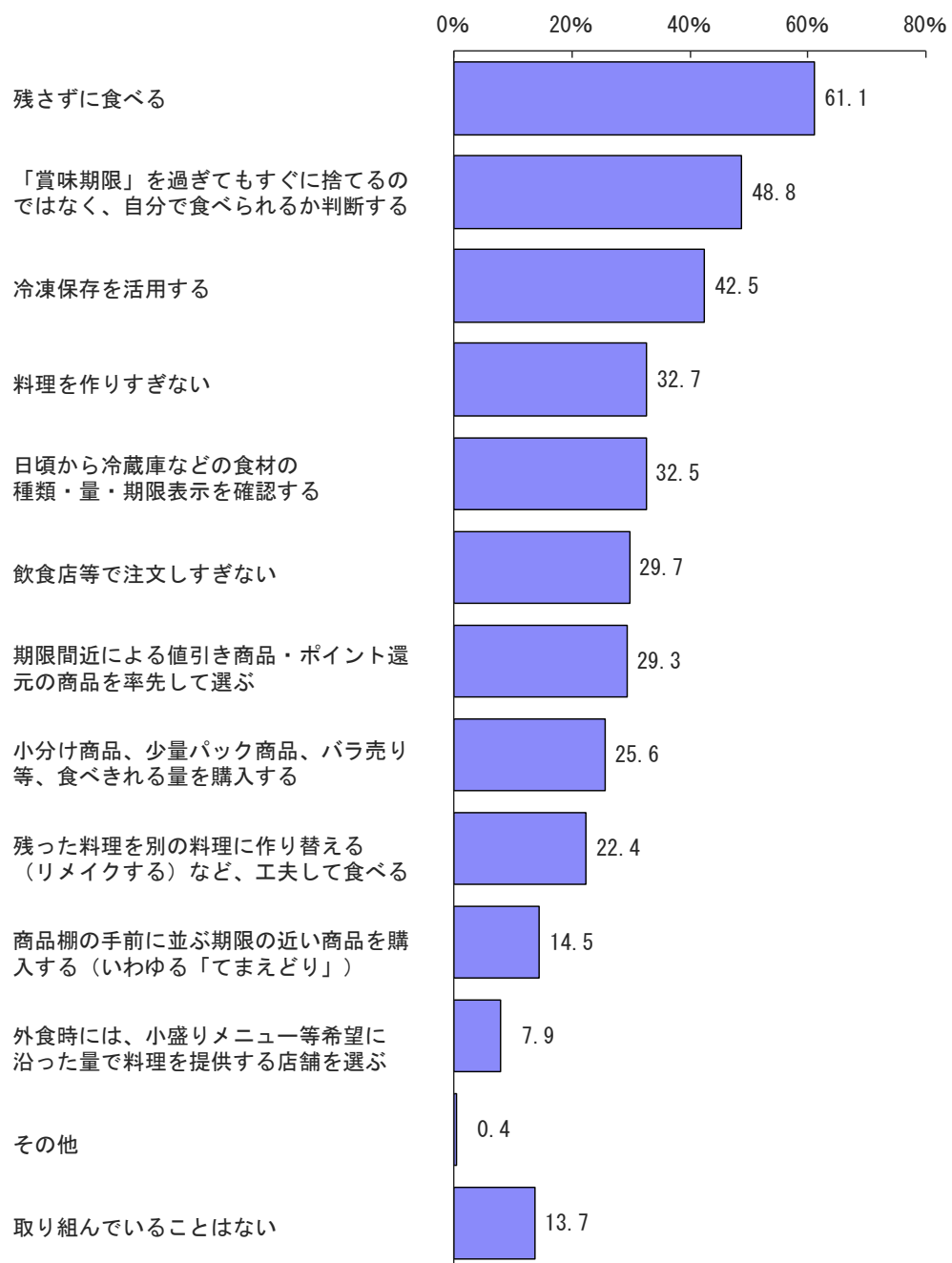
(n=5,000)

食品ロス問題の認知度を年代別に集計したところ、「知っている」（「よく知っている」と「ある程度知っている」のいずれか）と回答した人の割合が最も高かった年代は60歳代（90.7%）となっている。一方で、「知らない」（「あまり知らない」と「全く知らない」のいずれか）と回答した人の割合が最も高かった年代は20歳代（37.0%）となっている。



問2. あなたは、「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。以下の項目のうち、当てはまるものを全てお選びください。（複数回答）

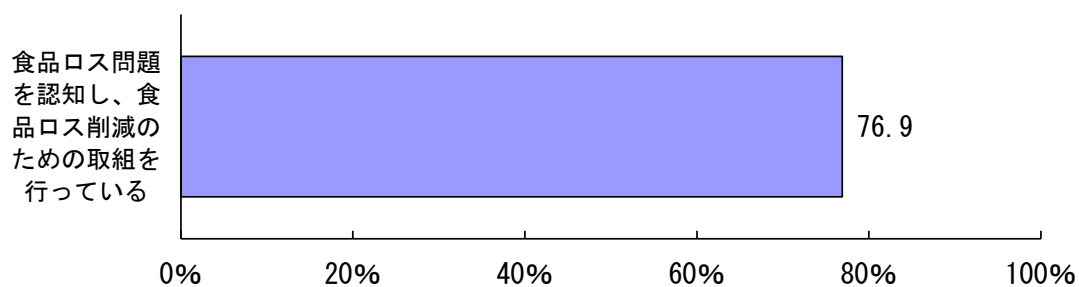
食品ロスを減らす取組で「残さずに食べる（61.1%）」と回答した人の割合が最も高く、次いで「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する（48.8%）」、「冷凍保存を活用する（42.5%）」となっている。また、「取り組んでいることはない（13.7%）」と回答した人の割合は1割程度となっており、何らかの取組を行っている人が大部分を占める結果となっている。



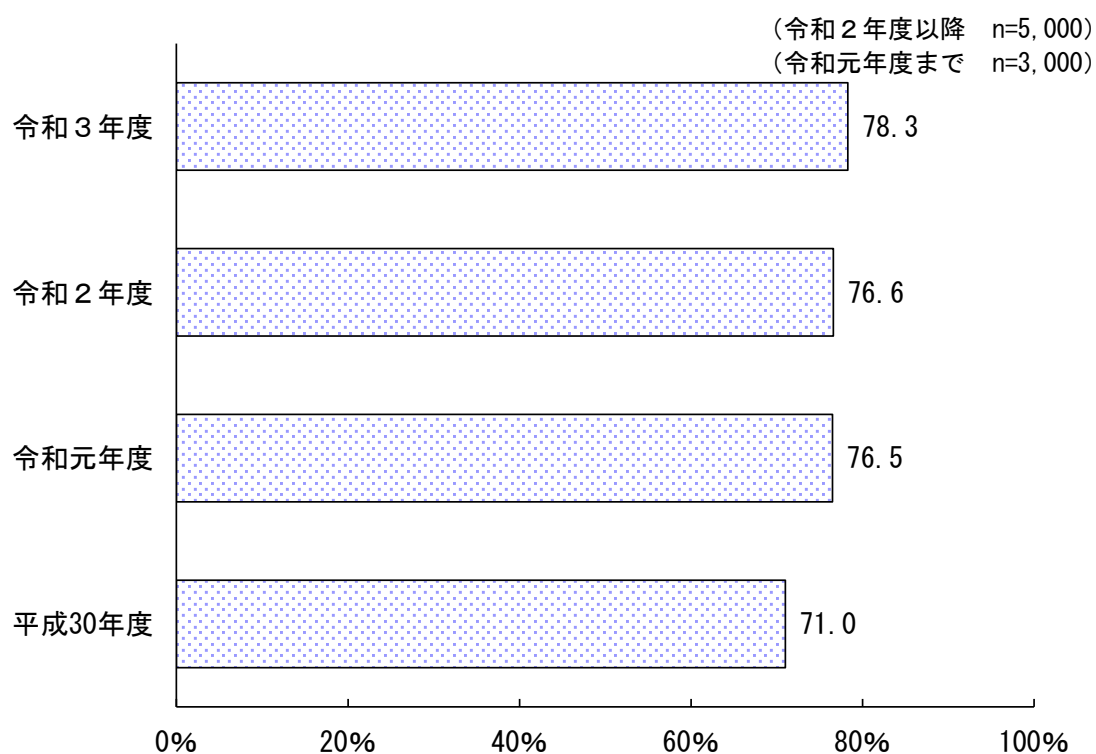
(n=5,000)

食品ロス問題を認知して食品ロス削減に取り組む人の割合を集計(問1×問2)したところ、食品ロス問題を「知っている」と回答し、かつ食品ロスを減らすための取組を行っている人は全体の76.9%となっている。

(n=5,000)



(参考：過年度の調査結果)



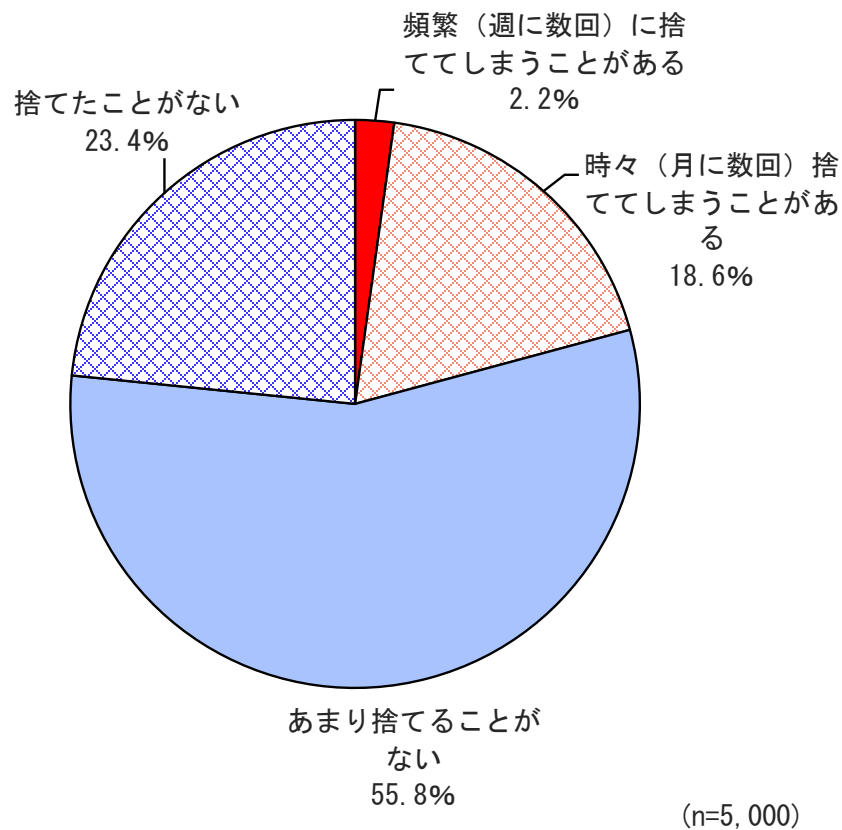
(出典) 消費者庁「消費者の意識に関する調査—食品ロスの認知度と取組状況等に関する調査—」¹

(備考) 過年度の調査対象年齢は、18歳以上(今回の令和4年度第2回消費生活意識調査の対象年齢は15歳以上)。

¹ https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/efforts/

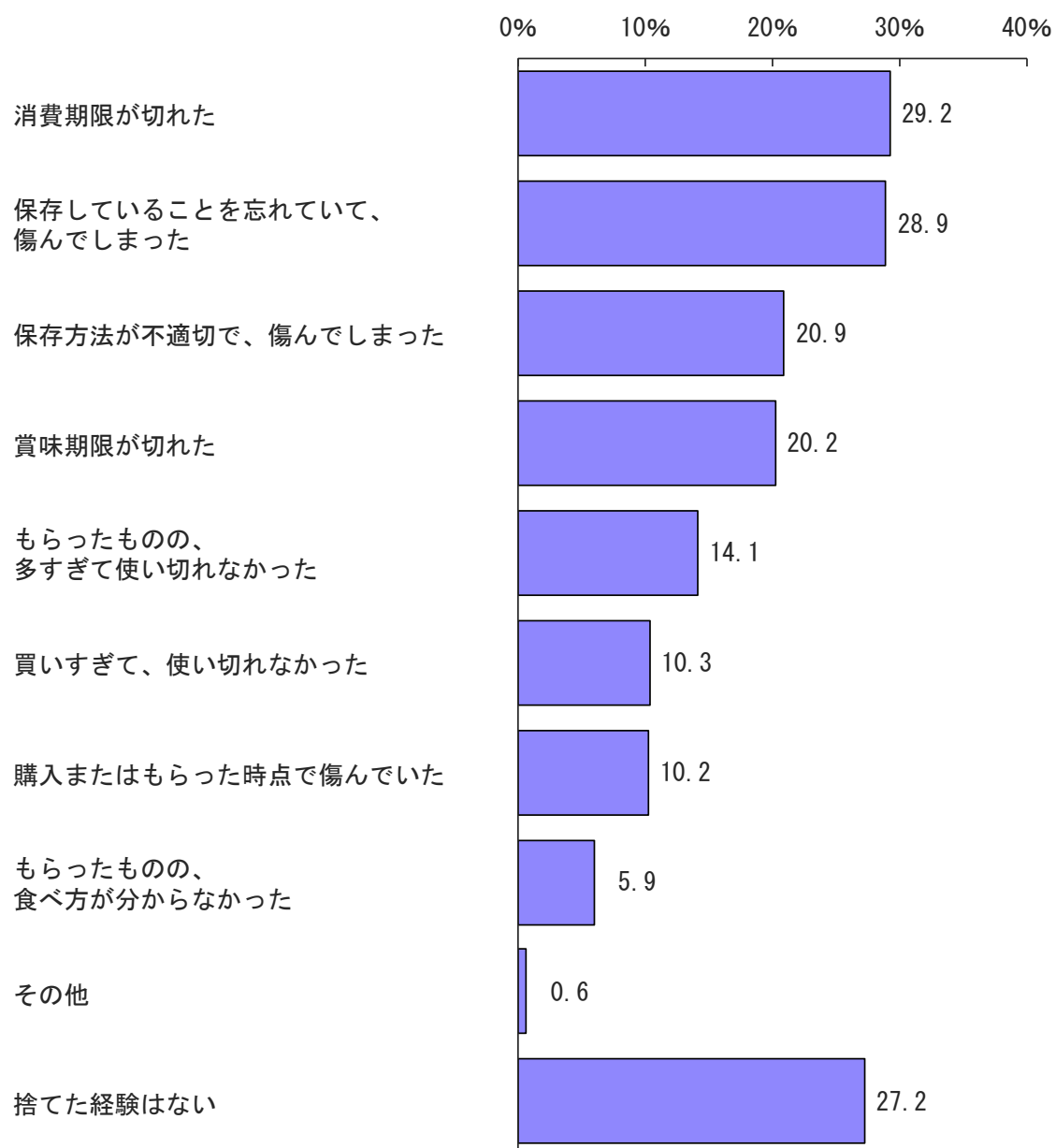
問3. あなたは普段の生活でまだ食べることができる食品を捨ててしまうことがありますか。以下の項目のうち、当てはまるものを一つお選びください。(単一回答)

普段の生活で食べることができる食品について、「あまり捨てることがない(55.8%)」、「捨てたことがない(23.4%)」と回答した人の割合が合計で8割程度と大部分を占めているものの、時々(月に数回)捨ててしまうことがある(18.6%)、「頻繁(週に数回)に捨ててしまうことがある(2.2%)」と回答した人の割合は合計で2割程度となっている。



問4. 未開封・未使用の食材・食品を捨ててしまったことはありますか。捨ててしまった際の理由として、当てはまるものを全てお選びください。(複数回答)

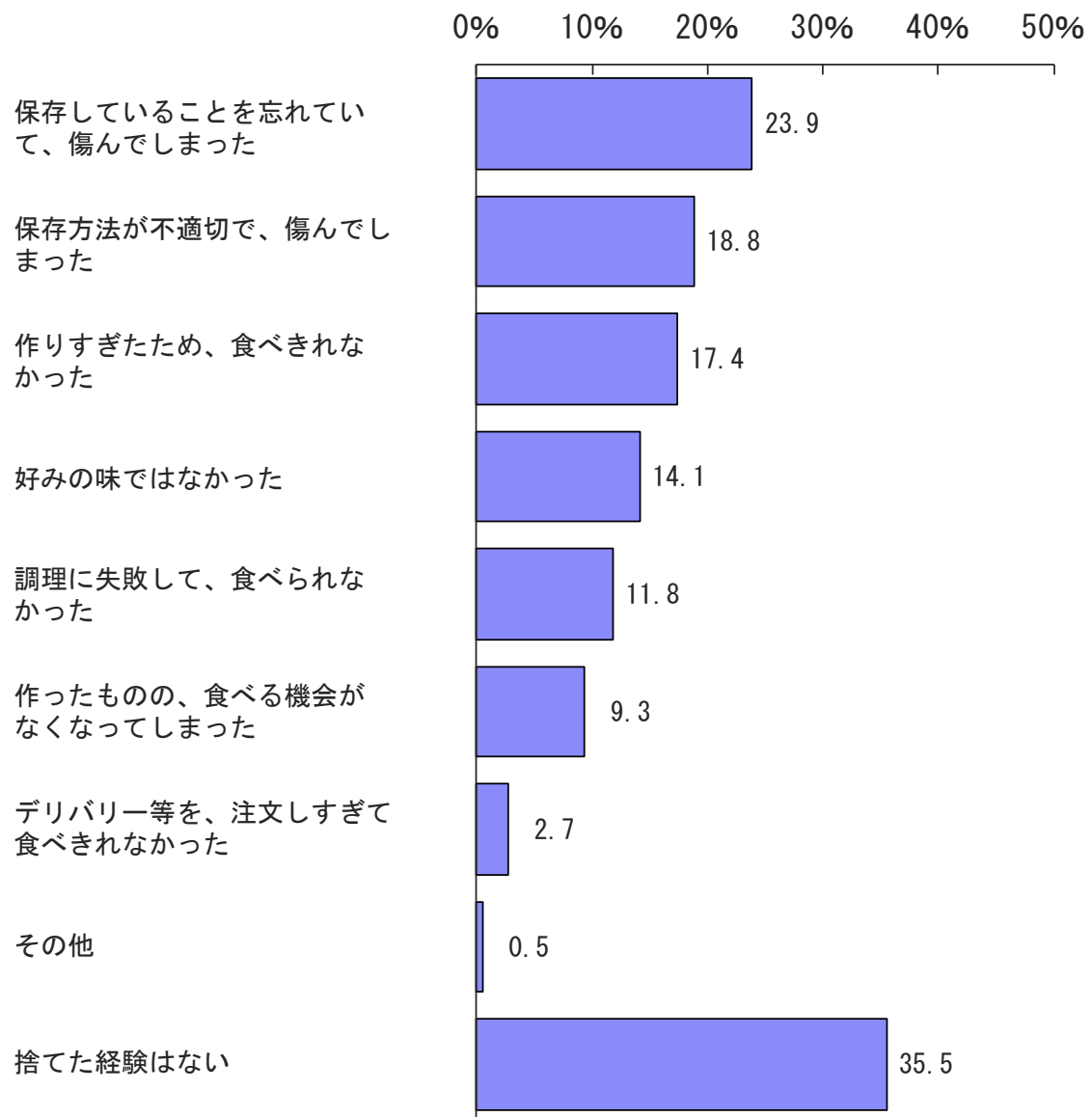
未開封・未使用の食材・食品を捨ててしまった理由の上位は、「消費期限が切れた(29.2%)」、「保存していることを忘れていて、傷んでしまった(28.9%)」となっており、どちらも3割程度を占めている。



(n=5,000)

問5. 料理を食べ残して捨ててしまったことはありますか。捨ててしまった際
の理由として、当てはまるものを全てお選びください。(複数回答)

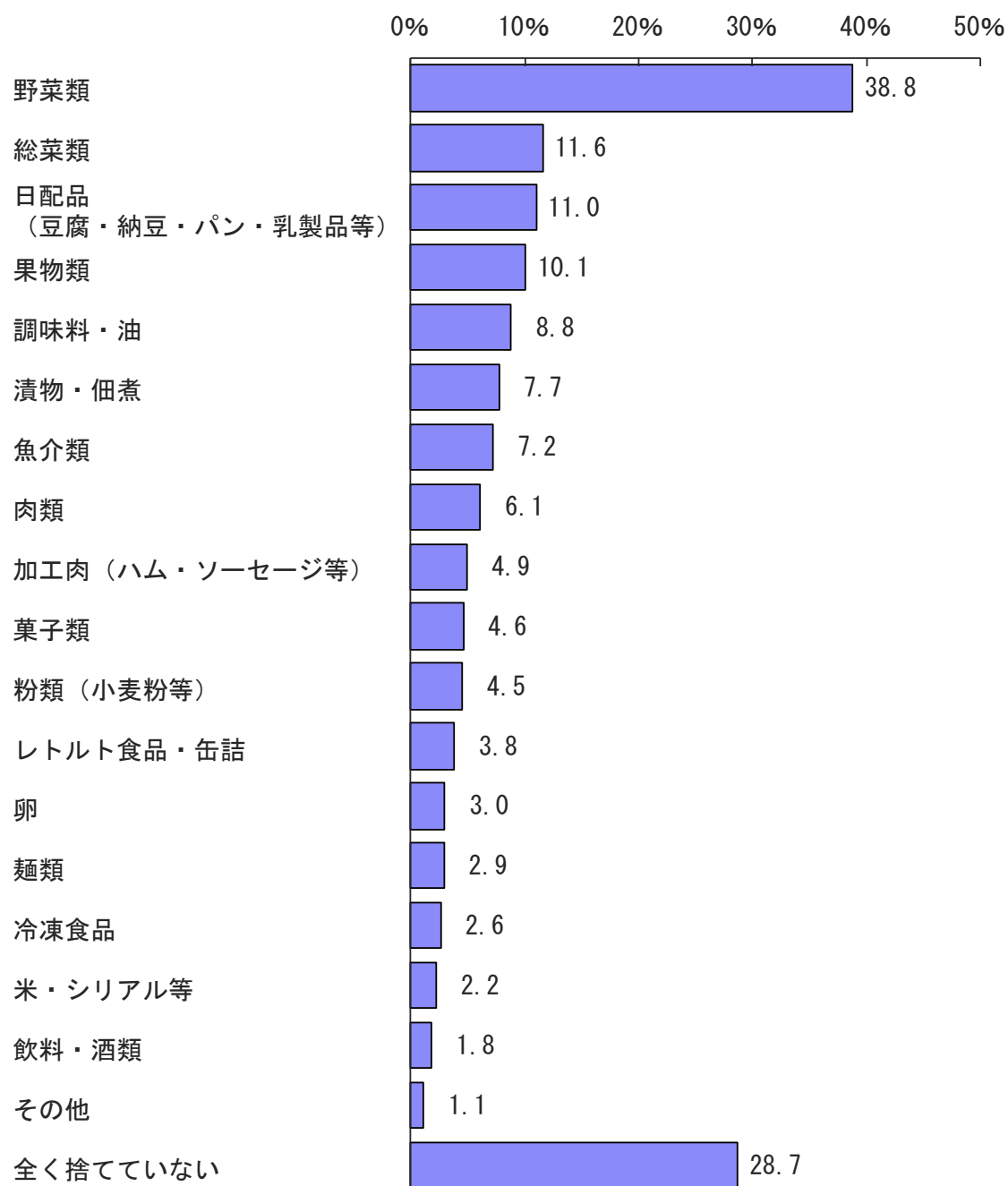
料理を食べ残して捨ててしまった理由の上位は、「保存していることを忘れて
いて、傷んでしまった(23.9%)」と回答した人の割合が最も高く、次いで「保
存方法が不適切で、傷んでしまった(18.8%)」、「作りすぎたため、食べきれな
かった(17.4%)」となっている。



(n=5,000)

問6. 家庭で捨ててしまいがちな食品を全てお選びください。(複数回答)

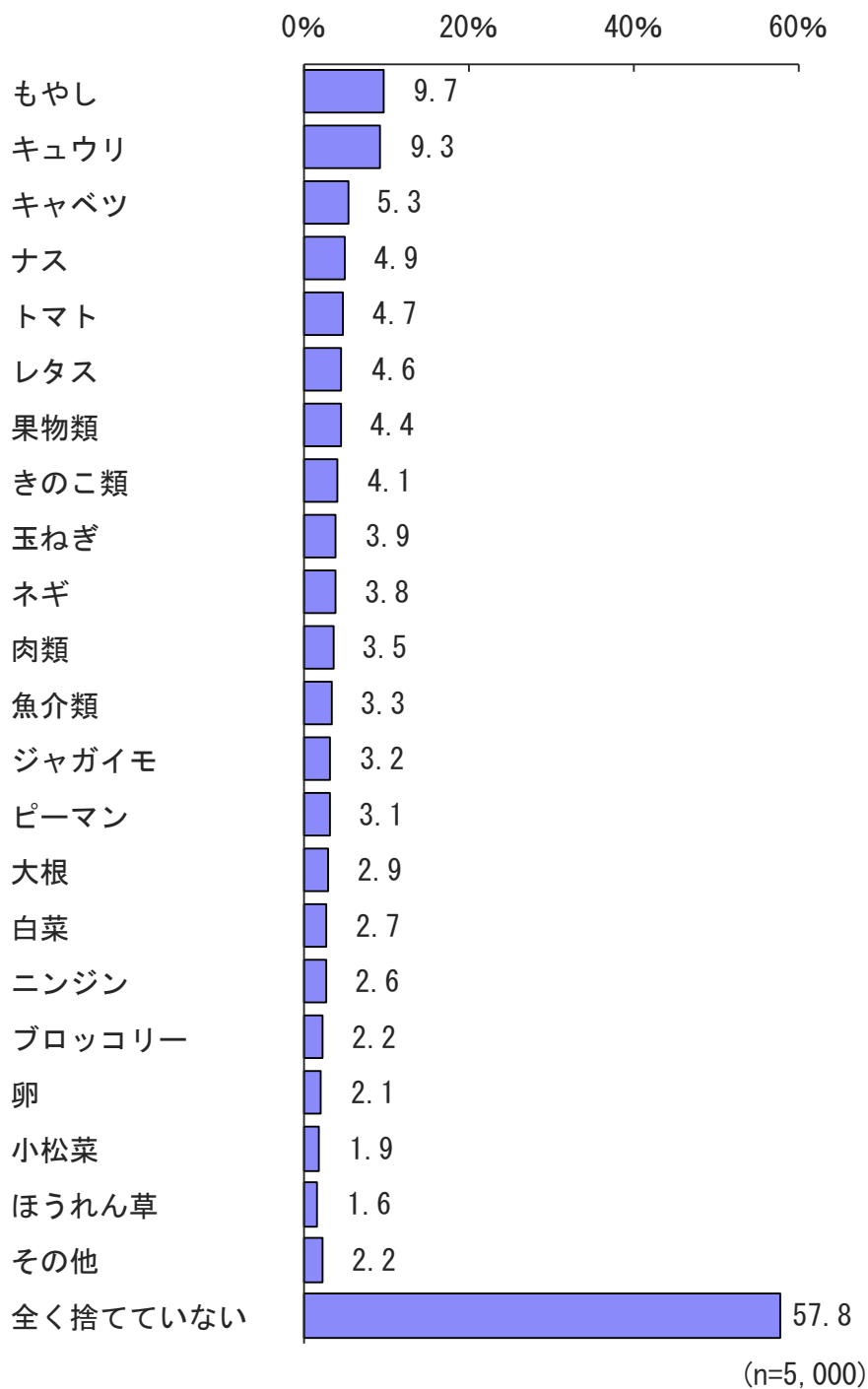
家庭で捨ててしまいがちな食品として、「野菜類 (38.8%)」と回答した人の割合が最も高い。一方で、割合が低い食品として、「飲料・酒類 (1.8%)」、「米・シリアル等 (2.2%)」、「冷凍食品 (2.6%)」が挙げられる。



(n=5,000)

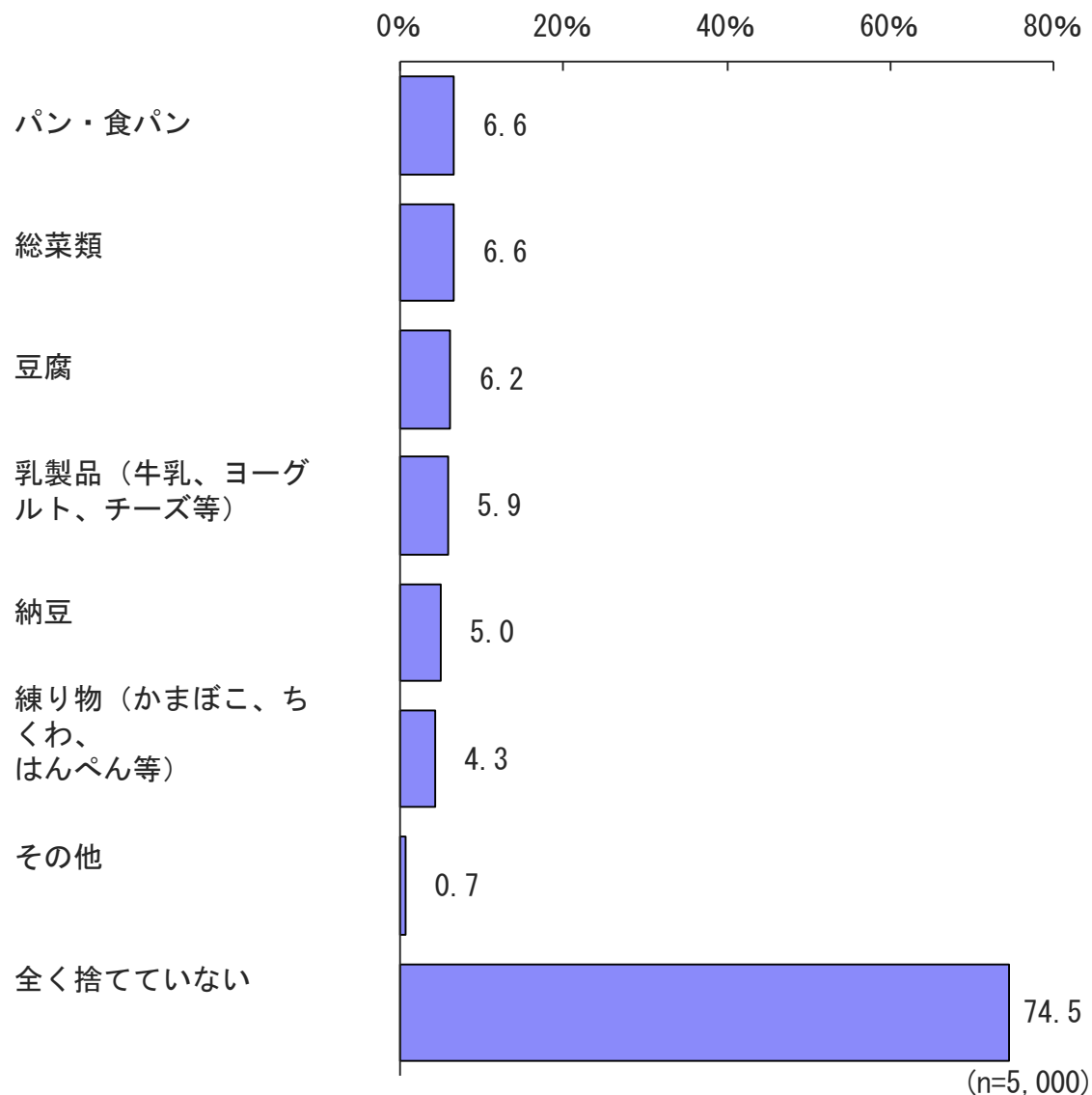
問7. 直近1か月の間に捨ててしまった生鮮食品を全てお選びください。(複数回答)

直近1か月の間に捨ててしまった生鮮食品としては、「もやし (9.7%)」、「キュウリ (9.3%)」が上位である。一方で、「全く捨てていない (57.8%)」と回答した人は半数以上となっている。



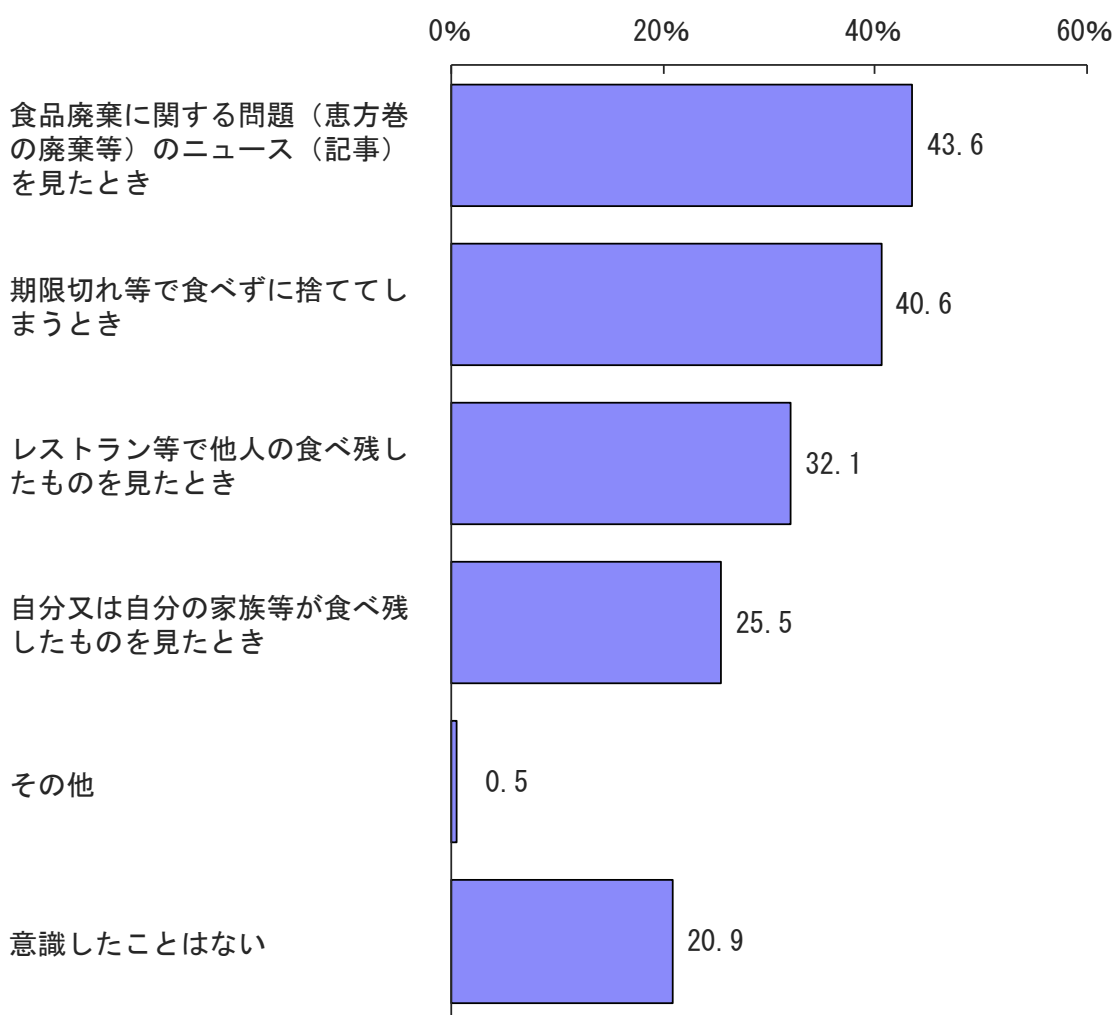
問8. 直近1か月の間に捨ててしまった日配品（毎日店舗に配送される、比較的賞味期限の短い商品）を全てお選びください。（複数回答）

直近1か月の間に捨ててしまった日配品としては、「パン・食パン（6.6%）」、「総菜類（6.6%）」、「豆腐（6.2%）」が上位である。一方で、「全く捨てていない（74.5%）」と回答した人の割合は7割以上となっている。



問9. あなたは食生活の中で「もったいない」を意識したことはありますか。以下の項目のうち、当てはまるものを全てお選びください。(複数回答)

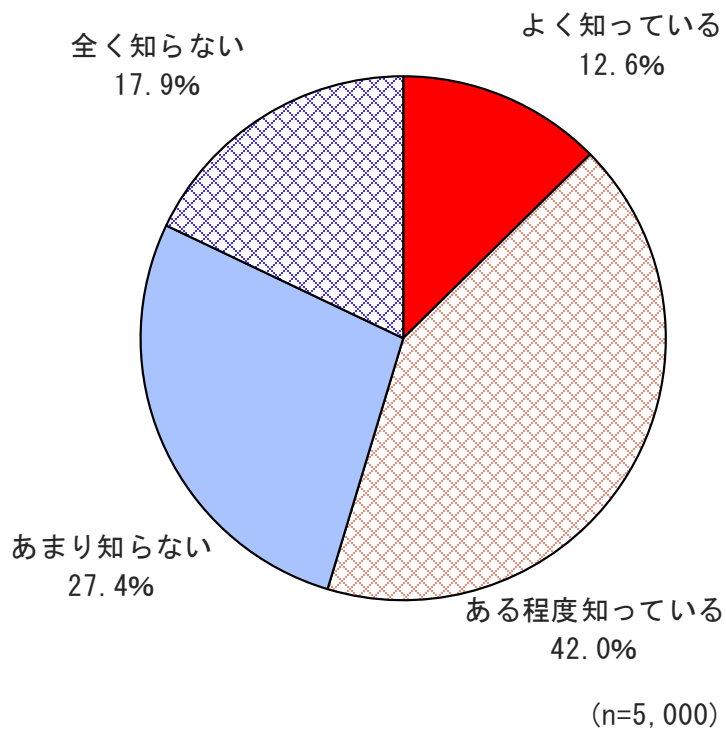
食生活の中で「もったいない」を意識した状況の上位は、「食品廃棄に関する問題（恵方巻の廃棄等）のニュース（記事）を見たとき（43.6%）」、「期限切れ等で食べずに捨ててしまうとき（40.6%）」となっている。一方で、「自分又は自分の家族等が食べ残したのを見たとき（25.5%）」は他の項目に比べて回答した人の割合が低い。



(n=5,000)

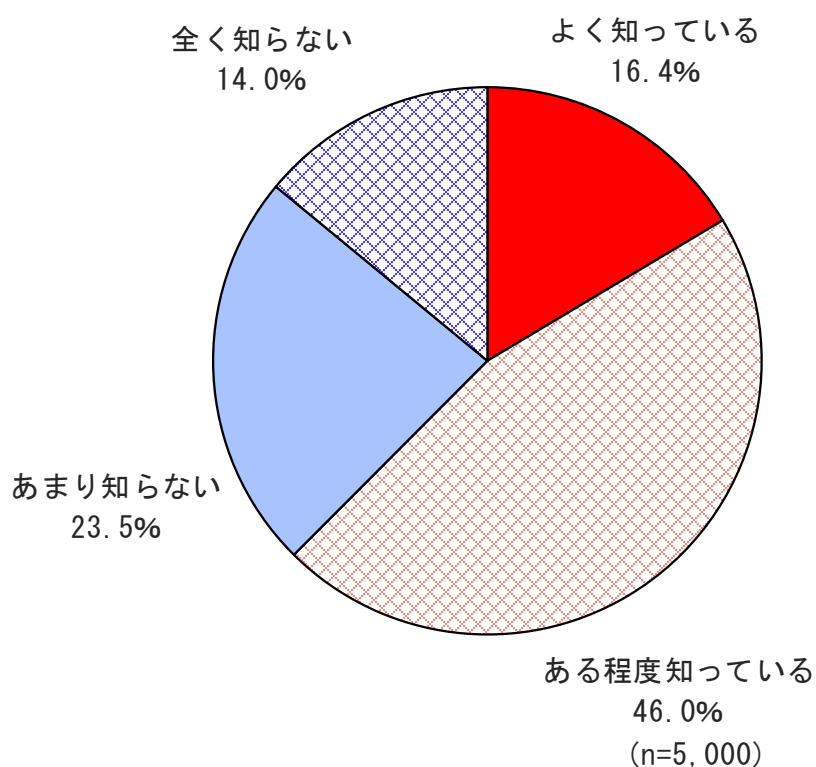
問 10. あなたは、食品ロスを削減することは、「環境にやさしく、人や社会等の配慮にもつながる消費行動」であるエシカル消費の一つであることを知っていますか。以下の項目のうち、当てはまるものを一つお選びください。(単一回答)

食品ロスを削減することは、「環境にやさしく、人や社会等の配慮にもつながる消費行動」であるエシカル消費の一つであることを、「よく知っている (12.6%)」、「ある程度知っている (42.0%)」と回答した人が合計で半数以上を占めている。



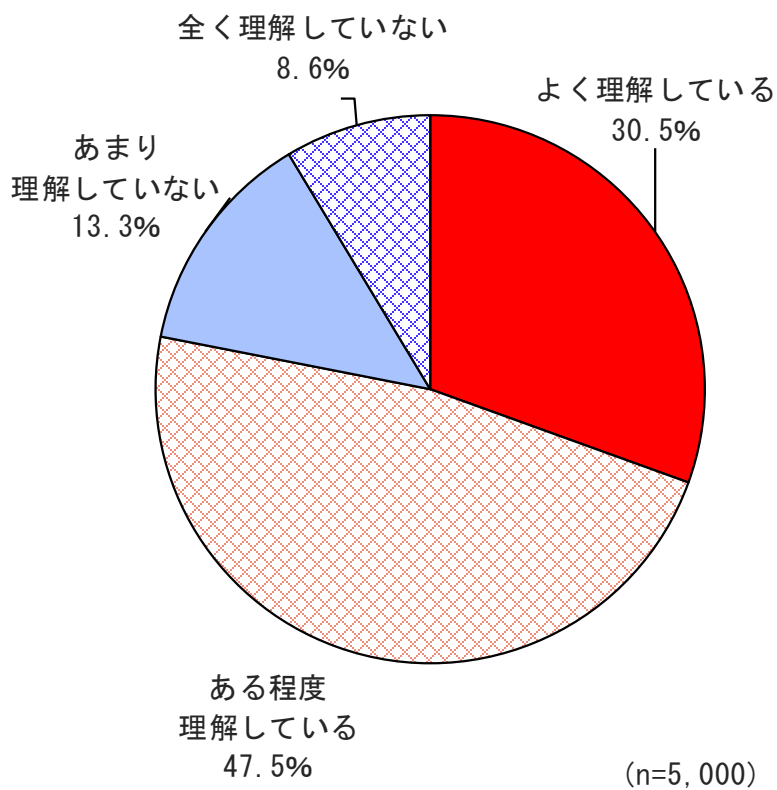
問 11. あなたは、食品ロスを削減することは、持続可能な開発目標（SDGs）の一つであることを知っていますか。以下の項目のうち、当てはまるものをお選びください。（単一回答）

食品ロスを削減することは、持続可能な開発目標（SDGs）の一つであることについては、「よく知っている（16.4%）」、「ある程度知っている（46.0%）」と回答した人の割合が合計で6割以上を占めている。



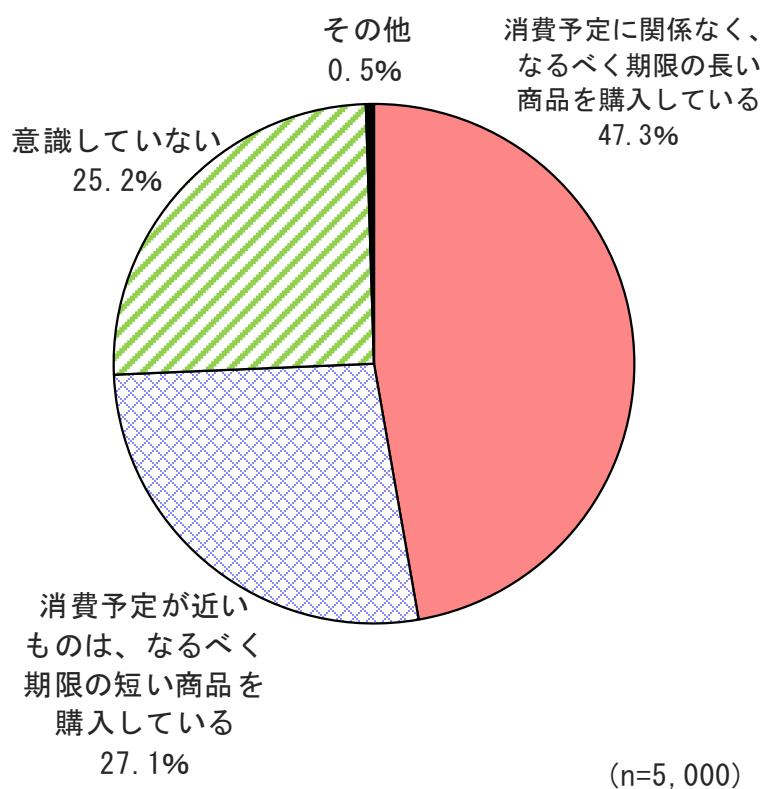
問 12. 「賞味期限」とはおいしく食べられる期限、「消費期限」とは安全に食べられる期限のことを言います。賞味期限・消費期限を正しく理解していますか。以下の項目のうち、当てはまるものを一つお選びください。(単一回答)

賞味期限・消費期限については、「よく理解している (30.5%)」、「ある程度理解している (47.5%)」と回答した人の割合が合計で8割程度を占めている。



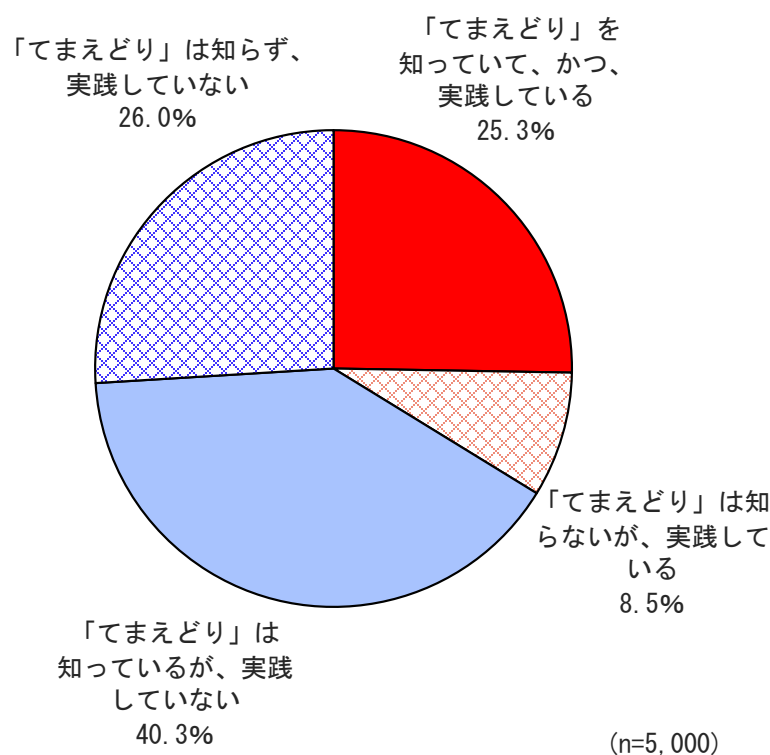
問 13. あなたは食品を購入する際に賞味・消費期限を意識していますか。以下の項目のうち、当てはまるものを一つお選びください。(単一回答)

賞味期限・消費期限に対して、「消費予定に関係なく、なるべく期限の長い商品を購入している (47.3%)」と回答した人の割合が「消費予定が近いものは、なるべく期限の短い商品を購入している (27.1%)」と回答した人の割合よりも高い。



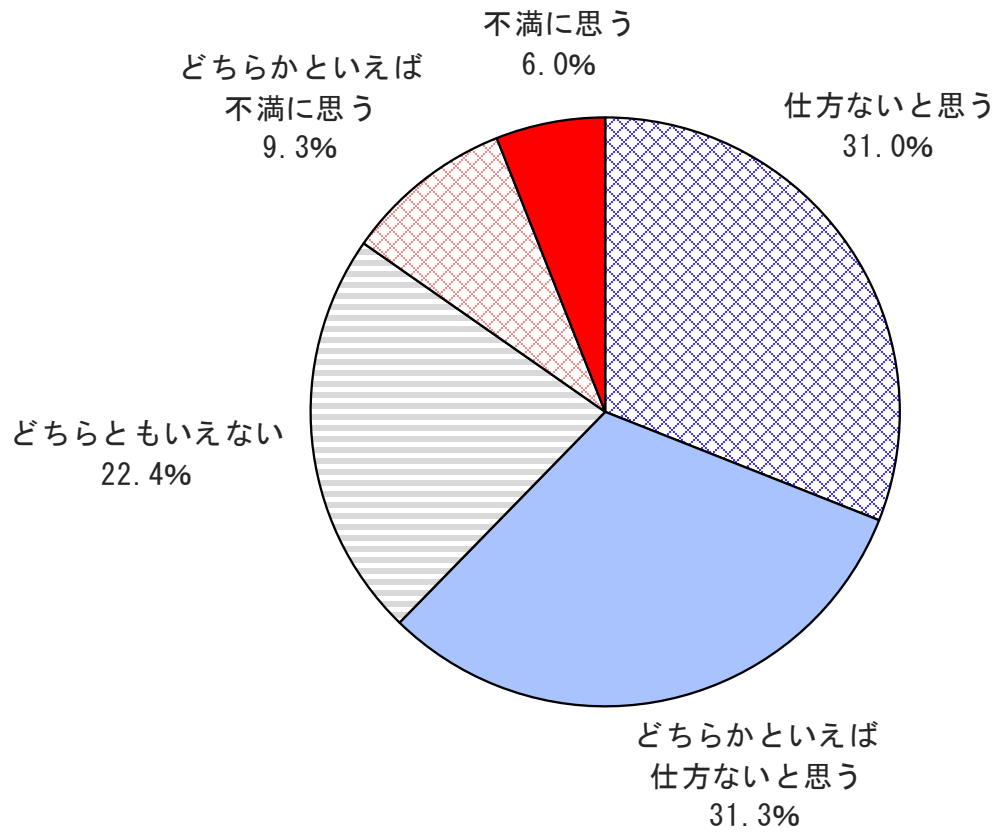
問 14. 棚の手前から商品をとる「てまえどり」について、以下の項目のうち、当てはまるものを一つお選びください。(単一回答)

「てまえどり」を知っている（『てまえどりを知っていて、かつ、実践している』と『てまえどりは知っているが、実践していない』のいずれか）と回答した人の割合は合計で7割強となっているが、『てまえどりを知っていて、かつ、実践している（25.3%）」が2割強に対して、『てまえどりは知っているが、実践していない（40.3%）」は4割程度となっている。



問 15. あなたは日常の買い物をしている小売店（スーパー等）において、普段購入している総菜などの食品に欠品（売り切れ）が生じていた場合に、どのように思いますか。以下の項目のうち、当てはまるものを一つお選びください。
（単一回答）

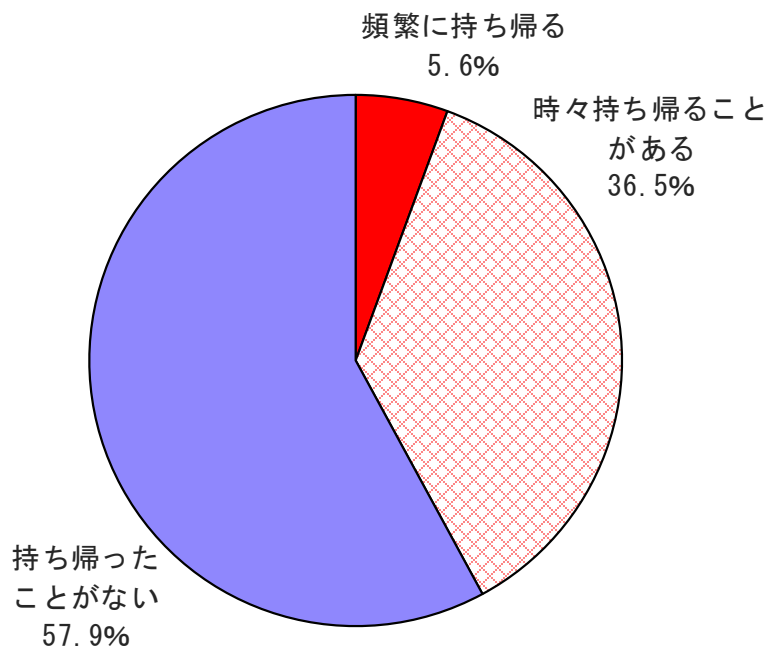
普段購入している総菜などの食品に欠品（売り切れ）が生じていた場合、「仕方ないと思う（31.0%）」、「どちらかといえば仕方ないと思う（31.3%）」と回答した人の割合の合計が6割程度となっている。一方で、「不満に思う（6.0%）」、「どちらかといえば不満に思う（9.3%）」と回答した人の割合の合計も2割弱を占めている。



(n=5,000)

問 16. 持ち帰り用パック等を使って飲食店で食べきれなかった料理を持ち帰ることはありますか。以下の項目のうち、当てはまるものを一つお選びください。
(単一回答)

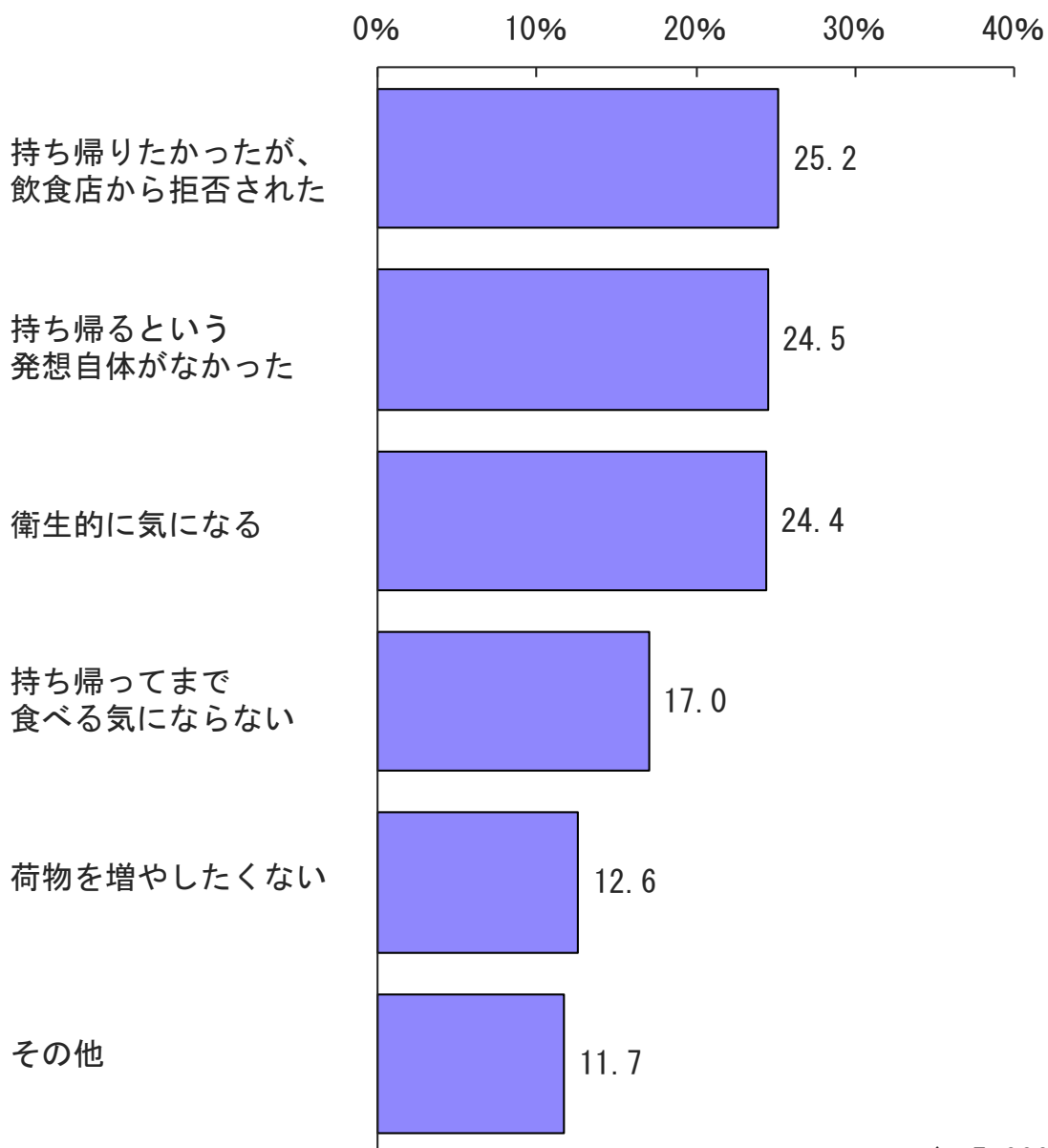
飲食店で食べきれなかった料理を持ち帰ることについて、「持ち帰ったことがない (57.9%)」と回答した人が半数以上を占めている。



(n=5,000)

問 17. 飲食店で食べきれなかった料理を持ち帰らなかった理由として、以下の項目のうち、当てはまるものを全てお選びください。(複数回答)

飲食店で食べきれなかった料理を持ち帰らなかった理由の上位は、「持ち帰りたかったが、飲食店から拒否された (25.2%)」、「持ち帰るという発想自体がなかった (24.5%)」、「衛生的に気になる (24.4%)」となっている。



(n=5,000)

問 18. 食品関連事業者（食品製造業者、スーパー、飲食店、ホテル、結婚式場等）は食品リサイクル法（2001年～）に基づき、食品廃棄物の発生を抑制し、やむを得ず発生してしまった場合はリサイクル（肥料化・飼料化等）に努めることが義務付けられていることを知っていますか。以下の項目のうち、当てはまるものを一つお選びください。（単一回答）

食品廃棄物の発生を抑制し、やむを得ず発生してしまった場合はリサイクル（肥料化・飼料化等）に努めることが義務付けられていることについて、「よく知っている（5.0%）」、「ある程度知っている（26.1%）」と回答した人の割合が合計で3割程度を占めている。

